

# 2022 年末 收拾方針案

# JLUニュース

No 846(14-15)  
航空連 日本航空ユニオン  
中央執行委員会  
2022年 11月 16日

Tel: 03-5756-8690 URL <http://www.jlu.co.jp> e-mail [honbu@jlu.co.jp](mailto:honbu@jlu.co.jp)

## 年末闘争を收拾し 23 春闘へ

2022 年末闘争では、全体に波及する改善はできませんでしたが、一時金 1.7 ヶ月の支払いと第 3 四半期決算確定後に期末一時金を検討することが示されました。中央執行委員会は、ここまでの到達点を踏まえて、今年末を收拾することとしました。收拾方針は、11 月 25 日の中央委員会で決定します。

### 2022 年末闘争の流れ

#### ◆上期決算 JALは赤字大幅縮小でANAは黒字化達成

航空・鉄道業界の業績は新型コロナ禍に伴う行動制限がなくなった影響で回復基調にあり、11 月始めに出揃った中間決算では ANA と JR 各社は中間決算としては 3 年ぶりに黒字に転換しました。ANA HD は水際対策の緩和で国際線の旅客数は当初の想定を大きく上回り、前年同期の約 5.1 倍に増えました。下期も需要が戻ると見て、上期の上振れ分で通期見通しを上方修正しました。

■航空・JR主要5社の業績は大幅に改善した

	売上高	純損益	2023年3月期の純損益の見通し
ANAHD	7907 (83.4)	195 (¥988)	400
日本航空	6185(112.8)	¥21(▼1049)	450
JR東日本	1兆1150 (27.0)	271(▼1452)	600
JR東海	6341 (63.9)	969 (¥444)	1410
JR西日本	6167 (41.2)	645 (¥686)	585

【2022,11,02 朝日新聞】

JAL は上期の純損益が 21 億円の赤字となったものの、EBIT では 3 億円の黒字を達成しており、下期も高単価の国際線旅客、好調な貨物事業を考慮し、収入見通しを上方修正しました。燃油費、為替の影響で費用も増加するため通期の目標 EBIT800 億円は据え置きました。

#### ◆急速な復便で高稼働となり期待が膨らんだ 22 年末

旅客需要の急回復で久しぶりに夏の繁忙期を経験したタイミングで年末アンケートがスタート。「2 年間続いたコロナ禍での減収を何とか取り戻したい」「足許の物価上昇に対応できる一時金を」という声とともに、期待する一時金係数と定額が寄せられました。そのアンケートを元に、2.5 ヶ月 + 10 万円の要求を決定。一方、ANA 経営は年末交渉が始まる前の 10 月 5 日に労組に対し年末一時金 2.0 ヶ月を提示、マスクを通じ JAL の職場にも広まりました。

団交では、一時金について「安定的な水準に早期に回復させたいと考えている」と述べる一方でロシア・ウクライナ問題や燃油費等の不透明感も強調していました。JALFIO の要求は最初から期末ありきで作られていましたが、私たちは今できる最大限の一時金を年末に支払うことを求めました。しかし 11 月 1 日の指定日に示された回答は、上期決算発表後であるにもかかわらず、一時金は先送り、諸要求については、「検討する」が何点かあるだけでした。

回答後の方針は、一時金回答遅延に抗議し、山場のスト権を背景に再回答を目指すとなりました。11 月 10 日の再回答では、1.7 ヶ月の年末一時金と期末を検討することが示され、中央闘争委員会では、争議行為については職場の意見を聞き、15 日の団交を踏まえて決定するとしていました。

#### ◆最終団交でも職場の問題を伝え今後の協議に繋げる

15 日に山場前最終の位置づけで行われた団交でも、回答に対する職場の声を主張、現時点での期末の考え方を確認しました。また、整備本部からは総務部と企画財務部の部長が揃って出席し、整備の体制やシニアの労働条件について議論しました。

### 年末闘争の到達点と課題

#### ■業績回復も不透明感を強調 期待を裏切る一時金

私たちは 2.5 ヶ月 + 10 万円を目標に交渉してきました。しかし、ANA で年末一時金 2 ヶ月が決定していることから、職場では「2 ヶ月は当然でそれ以上を」という見方もありました。上期決算と今後の見通しを解説した社内の動画を見ても、通期の黒字化は期待でき、それならば先に 2.5 ヶ月出して、社員のモチベーションを上げるべきだと主張しました。また、今年の急速な物価上昇に対してインフレ手当を払っている会社もあることを伝え、定額回答を加えることを訴えました。それでも、燃油高や「第 8 波」のリスクなど不透明感があることを理由に、結果として係数では夏より 0.2 ヶ月だけ多い 1.7 ヶ月の回答が示されました。第 3 四半期決算発表後の期末についても「検討する」に留まり具体的な規模感、支払日は示されていません。「2 ヶ月は出るだろう」と思っていた多くの人からは、「最低でも 2 ヶ月」「黒字なら 2 ヶ月は約束」との声があがりました。私たちは年末で期末は要求していませんが、この回答を受け「期末に期待」という声もありました。

#### ■諸要求への回答や、22 年末で強調して主張したこと

##### ① 中国への日帰り出張 帰りの地上交通手段には配慮

8 月から中国への搭乗整備が一般職にもアサインされるようになり組合員から様々な問題点が報告されていました。団交では、長時間拘束になる出張は可能な限り管理職で対応

することを求めました。また、機内で過ごす時間は休憩とは言えないことも訴えました。この出張では羽田→北京→成田のパターンもあり、その場合の帰宅交通手段についても問題がありました。規定の解釈上、特急、リムジンバスは認められないという発言があったものの、回答書に改善を検討すると書かれ、間もなく業連が出されました。今は特別運用で空港～自宅間の交通手段の選択肢が増えています。

## ② 暖房手当、高速代、シニアのラ確手当なども追求

今年も灯油代の高騰が続き、団交でも北国の生活を助ける手立てを検討させました。暖房手当は平行線で終わっていますが、最終団交で「JALのスケールメリットを活かして今冬は何か出来ることがないか考えたい」との発言を引き出しました。アルコール検査の時間についても「就業時間内に実施しやすい環境作りを検討する」ことになっています。今後の動向に注視して労協などでも確認していきます。

マイカー通勤の高速代の要求は一部変更し、タクシー配車のある時間に限定して全額支給を求めましたが、「現行水準で適正」として200円の補助から全く変わっていません。

シニアの待遇改善では部分就労が認められない職場の例を伝え、少しでも多くの人が残れるように訴えました。また、部分就労の方の確認主任者手当が時間按分されて減額になることについては、手当のあり方と現役の確認主任者の気持ちを人財本部に強く伝えました。

## ③ 整備本部の団交参加が定着、コミュニケーション改善

年末もM1ビルにて対面による5回の団交が開催されました。整備本部からの参加は定着しており、初回は事務方が参加し要求趣旨を聞き、その後総務グループ長が参加、最終団交には総務と企画財務の部長が揃って出席するようになりました。責任のある立場の役員が参加すると労働条件改善を目指す団交の場に合わない話にも耳を傾け、自分の言葉で返す姿勢が見られます。普段から直接言える場が多くあれば、改善の近道になりますし、整備本部としても団交以外でも聞く体制はあると言っています。今後の整本労協や各種交渉でも率直な意見を伝えて改善を求めていきます。

### ■ 朝ビラを継続、幅広く職場の反応を確認して団交へ

職場世論を形成するためにWING朝ビラで年末の取り組みを紹介、JU宣伝ビラでは一時金の要求を中心に宣伝してきました。コロナ禍で毎日の出社人数は減っていますがビラ配布で存在感を示すことは大切です。JU宣伝ビラはJFU、CCUと協力しテクセンでも配布、WINGビラの配布では職場の組合員も夜勤明けに参加しました。

その他の取り組みでは「JU集会オンライン」を、11月11日にJU3労組+JGS各労組の組合員に呼びかけて開催。JLUの職場からも組合員が参加し職場の問題、年末の課題を共有しました。また夏闘に引き続きオンライン職討(11/2、3、4)を設定しました。参加人数は少なかったものの、支店の問題も聞けて、その後の団交に活かせました。今後も支店

オルグなどを実施し、担当基地との連絡をより密にし、気軽に話せる雰囲気を作ることで情報を集めていきます。

団交で重要なのは職場の意見です。WEBを使った回答アンケートは2回実施し、昨年並みの回収ができました。JALFIO、JALEC社員にも広げ、様々な意見を集約することで団交の説得力が増し、要求実現につながります。

## 今後の方針

航空連の2022年末闘争は、JALグループの6労組(JFU、CCU、JLU、グラハン労連:JGS3労組)が、18日の山場に向けて交渉を進めました。

11/1、10の回答と、15日の団交を踏まえ、JFUは15日20:15にスト体制解除を、JLUは16日11:10に争議行為配置せずと会社に伝え、CCUも11:35に山場の体制の具体化見送りを伝えました。

JGS各労組も一時金回答後、山場の争議権を背景に、再考を求め、職場の改善を求めてきました。16日にも団交があり最後まで要求の前進を目指しました。

各労組18日の山場に向け、年末の成果と今後の課題を整理し22年末の收拾に向かっています。

### (1) 年末闘争は收拾し23春闘の取り組みを開始する

提示された一時金の水準は、夏期繁忙期を支え、旅客需要の回復を間近で見ている職場からは、経営に裏切られた気持ちになる数字です。高い賛成率で確立した争議権を後ろ盾に前進回答を求めてきましたが、15日の時点でも変わりませんでした。黒字が見えているなら攻めの経営姿勢を一時金で示して、社員のエンゲージメントを高めるべきだと最後まで訴えて、争議行為の具体化は見送りました。引き続き整備本部労協、各センターとの交渉で改善を目指します。年末の回答内容と交渉での発言、運動の到達点を確認して22年末闘争には区切りをつけます。

22年末一時金は、支払日が12月9日と示されており、11月25日の14-02中央委員会で年末闘争收拾の可否を判断し、收拾を決定すれば9日に支払われます。

### (2) 残された課題は引き続き粘り強く追求する

- ①整備本部労協の実施
- ②HMZ、CSZとの支部交渉の実施

## 当面の取り組み

### 11月

22日:14-10 中央執行委員会

25日:14-02 中央委員会 (年末闘争收拾)

### 12月

01日:「フェニックス」朝ビラ 新整備場駅前

06日:14-11 中央執行委員会

### 09日 年末一時金支給日

13日:整備本部労協

【日本航空ユニオンニュース 846(14-15)号】